

## みんなの ニュース がかり (低学年 4-1(2))

### 一 ねらい

働くことよさを感じて、みんなのために働こうとする心情を育てる。

### 二 資料の特質

・ 新たに加えられた4-1(2)にかかわる生活場面の中で、係活動を取り上げた。これは、主人公をニュース係とすることで、ねらいに添いながら、情報モラルについても扱えるように構成したためである。

・ 情報モラルの指導については、低学年の発達の段階を考慮して、情報機器の利用等ではなく、日常、おそらくは意識せずに行われているであろう不正確な情報の流布に焦点をあてて構成してある。

・ 本資料は、個人の情報を、よく確かめずにニュースに書いてしまい、友達に責められたニュース係のけいすけが、その後、ゆいさんの言葉ヒントに、みんなに喜んでもらえるよう作り直すという話である。みんなの喜ぶ仕事をしようと努力し、最後には喜んでもらえたいすけの心情に共感させることで、情報モラルについて考えさせながら、みんなのために働くことよさを考えることができる。

### 三 展開例

1 みんなのためになる仕事はどんなものがあるか考え発表し合う。

2 資料「みんなの ニュース がかり」を読んで、話し合う。

(1) あわててニュースをはがしているけいすけは、どんな気持ちか。

・ せっかく、みんなを喜ばせようと思ったのに残念。

・ みんなに悪いことをしたなあ。

(2) 教室でニュースをながめているけいすけは、どんな気持ちか。

・ こんなニュースを書かなければよかった。

・ 頑張っただけなのに、むだだった。

(3) もう一度、ニュースを書いてあるゆいすけはどんな気持ちか。

・ ゆいさんが、喜んでくれてよかった。

・ もっとよくなしたしかめればよかった。

(4) 「みんなのニュースがかり」と言われたけいすけは、どんな気持ちだったか。

・ みんながうれしそうよかった。

・ みんなのためにこれからも頑張ろう。

3 自分自身を振り返って話し合う。

・ 今までに、みんなのために働いたことやそのときの気持ちや考えについて話し合う。

4 教師の説話を聞く。

・ 自分の行為が集団に喜んでもらったときのうれしさなど、勤労のよさを感じられる話をする。

### 四 指導上の留意点及び工夫

・ 本資料は情報モラルにかかわる内容が含まれているが、そのための指導に偏らないよう配慮しながら、展開例2の(1)では、誤った情報が与える周囲への影響について、展開例2の(4)では、正しい情報を伝達することの大切さについて触れるようにする。

・ 失敗はしたが、主人公の行為の原点が、「みんなに喜んでもらいたい」という気持ちなのだというところは、公共の精神にかかわる大切なところである。ここでのノート「大切な それぞれの しごと」(七十六〜七十九頁)などを活用しながら、丁寧に押さえておきたい。

・ 展開例3で経験を想起する際に、具体的な場面がすぐに出ないことがある。展開例1で発表し合った、みんなのための仕事を板書しておくことで、ここで考える手がかりとなる。